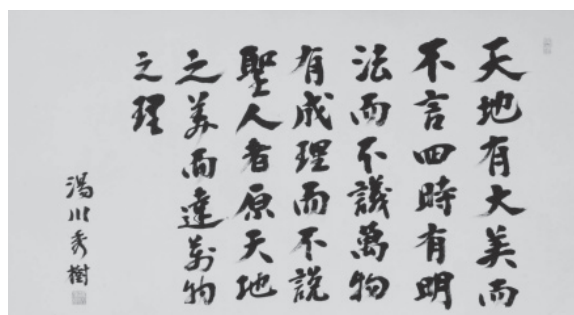


## 大阪大学大学院理学研究科長室に掲げられている額



### 湯川秀樹先生書の説明文

(原文の読み方および訳は岩波文庫「莊子」第三冊金谷治訳注 147-148 頁から引用)

書の文章は莊子外篇知北遊篇第二章の冒頭からとられている。上記金谷氏の訳注本によれば、知北遊篇は「莊子」の第二十二、外篇の第十五である。「莊子」は莊子およびその思想を受け継いだ人々の著作の集大成で、内篇・外篇・雜篇からなる。内篇七篇は莊子の原著で、外篇・雜篇はその後の莊子学派の著作とされている。また原文の区切りは、八字、八字、…で最後が六字になっている。

天地有大美而不言	天地は大美あるも言わず。
四時有明法而不議	四時は明法あるも議せず。
萬物有成理而不說	萬物は成理あるも説かず。
聖人者原天地之美 而達萬物之理	聖人なる者は天地之美に原(もと)づきて、 萬物之理に達す。

### 金谷氏の訳

天地自然は大きなすぐれた(生成の)働きをとげながら、そのことをことばでは言わない。四季のめぐりははっきりした法則を持ちながら、それを議論したりはしない。万物はそれぞれの道理をそなえながら、それを説き明かすことはしない。聖人というものは、この天地自然のすぐれた働きを根拠として、万物の道理に通達している。

平成 12 年 3 月 17 日 金森順次郎 記